

PowerTap簡易マニュアル

内容

1. 使い始める前の注意点
2. 互換性
3. ホイールの組み立て
4. 取り付け
5. PowerTap使用の流れ
6. コンピュータ操作の概要
7. PCへのPowerAgentのインストール
8. パワータップコンピューターの設定1
9. スタート前の準備
10. データのダウンロード

1. 注意点

PowerTapは精度の高いパワー測定のできる電子測定装置で、通常のホイールの取り扱いに準じている限り、特に注意点はありますが、防水に関して、以下の点は特にご注意ください。

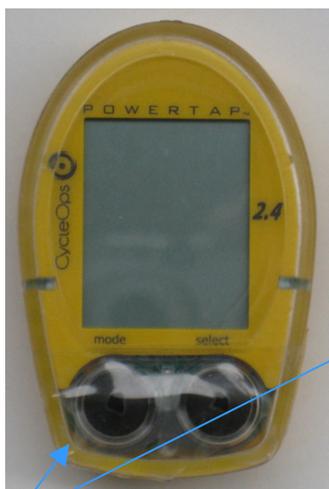
サイクルコンピュータならびにハブは防水性がありますが、**完全な防水ではありません**。

長時間水に接触するような環境におくことは避けてください。

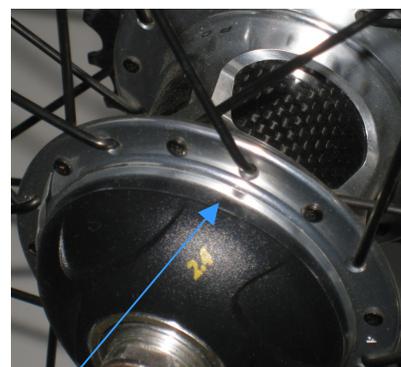
また、水中もしくは高水圧下に意図的にパワータップ本体、もしくはそのパーツ類をさらすことはしないでください(水中に浸しての洗浄、あるいは高圧水を用いた洗浄は絶対に行わないで下さい)。

雨中での走行の後にはパワータップ本体のプラスチックキャップを取り外し、内部を乾燥させるようにして下さい。

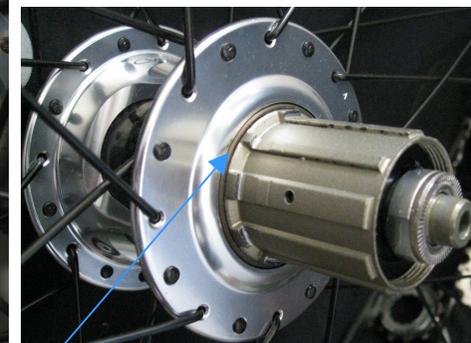
簡単にできる防水対策例



フィルムの貼り付け



つなぎ目にテープ



防水グリス(テフロン含有)の塗布

2. 互換性

パワータップSLのハブはシマノ8,9,10速、カンパニョーロ 8,9,10速のシステムに対応しています。フリーハブボディはそれぞれのシステムに合わせて交換する必要があります。

パワータップのハブはエンド幅が130mmのフレームに適合します。取り付けは適合する幅のハブをフレームに挿入するだけです。たとえば、130mmのロードバイクフレームに130mm用のハブを使用します。ハブに力をかけて無理にフレームに入れしないでください。

その場合フレームとハブが破損する恐れがあり、保証の対象になりません。個々の互換性については販売店もしくはSaris Cycling Groupに直接お問い合わせください。

3. ホイールの組み立て(完組ホイールではなく、ハブを購入した場合)

ホイールの組み立てはプロの整備士や販売店に依頼して下さい。スポークパターンはパワータップの両側とも3本交差するように組み、ラジアル式にはしないでください。ハブの形状が特殊なので従来のハブとは負荷のかかり方が異なります。

エアロスポークを組み付けるためにハブフランジに溝をつけないでください。その場合、保証の対象になりません。完組みホイールのハブの寸法はマニュアル原本Table2にあります。これに基づいてスポーク長を決めてください。

重要: 安全性を確保するために、電池内蔵側のフランジは絶対に2本交差組み以下にはしないで下さい。パワータップの特許となっている特殊なフランジによって、駆動力が反対側のフランジにも伝わるよう設計されています。これ以外の組み方で組んだ場合、保証の対象になりません。

4. 取り付け

4.1 ホイールをフレームに取り付け

パワータップSLホイールをフレームのエンドに挿入します。
車軸がエンドの溝に正しくはまっていることを確認し、
スキューアで固定します。

4.2 センサーケーブルの取り付け(SLとPROの場合)

パワー用受信機の位置は、右図の様にパワーメーター
本体から8cm以内で、左右の角度を5度以内となるよう設置して
下さい。ケイデンスセンサーも同様にマグネットとケイデンスセンサー間の距離に注意
して取り付けて下さい(ケイデンスセンサーを使わなくてもケイデンスは計測できます
が、より正確な計測のために使用をお勧めします)



4.3 コンピューターブラケットのハンドルバーへの取り付け

ステムとハンドルが選択できます(SL2.4とSL)。取り付け方はマニュアル原本
で確認して下さい(2A図・・・ハンドル取り付けの場合、2B図・・・ステム取り付けの場合)。
コンピューターをブラケットへ装着する際には、カチッと音がするまで確実に奥まで押して下さい

5. PowerTap使用の流れ

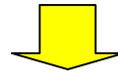
最初の設定

パワータップコンピューターの設定

時間と日付の設定
データ記録間隔の設定
ホイール周長の設定
総積算距離の設定

パソコンの設定

PCへのPowerAgent(データのダウンロード&解析ソフト)のインストール
(パワータップコンピューターの設定はPowerAgentからも可)



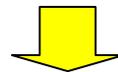
毎回の走行前

走り出す前のセット

信号の受信
ゼロトルク設定
以前のデータのクリア



データの記録(走行)



毎回の走行後

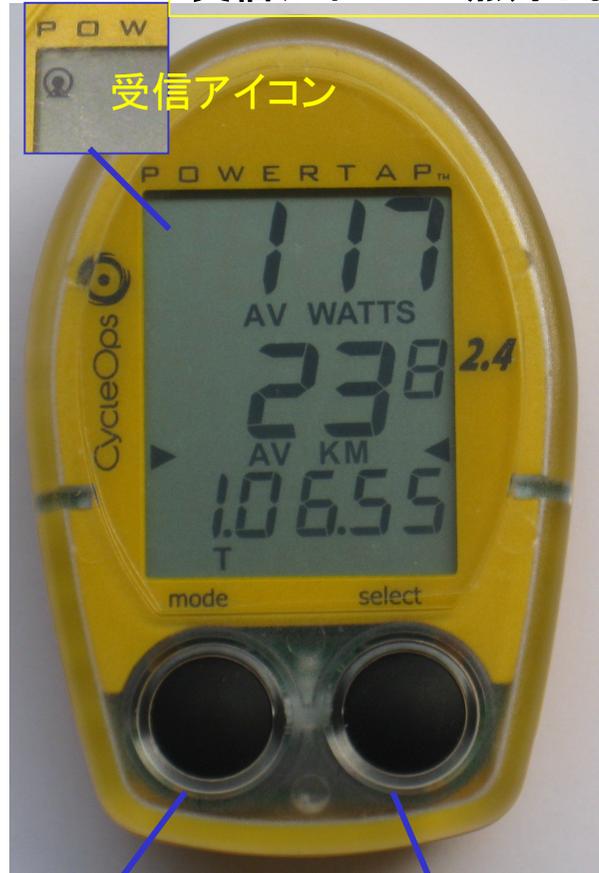
データのダウンロード



データの解析

6. コンピュータ操作の概要

本体からの信号を受信すると
受信アイコンが点灯します



受信アイコン

上段
パワー

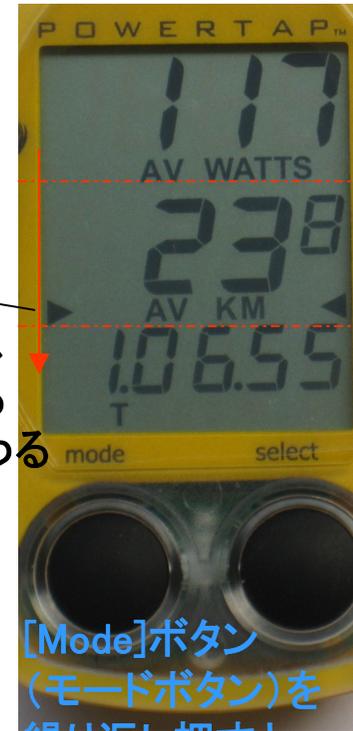
中段
スピード

下段
多機能表示
(距離, 時間,
ケイデンス
, HRなど)

[Mode]ボタン
(モードボタン)

[Select]ボタン
(セレクトボタン)

矢印
が移動し
表示する
段が変わる



上段
パワー

中段
スピード

下段
多機能表示

[Mode]ボタン
(モードボタン)を
繰り返し押すと

各段で表示する値が変わる



[Select]ボタン
(セレクトボタン)を
繰り返し押すと

7. PCへのPowerAgentのインストール

最新版のPowerAgent7は

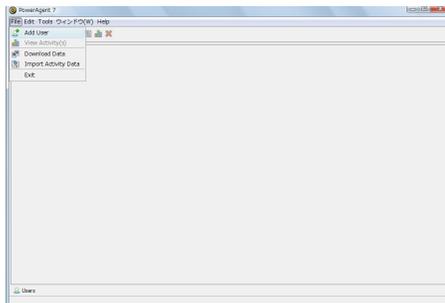
<http://www.cycle-ops.com/p-350-poweragent-72.aspx>

からダウンロードして下さい(できる限り最新のものを使って下さい)。
使用しているOSに応じてWindows, Linux, Mac版を選択します。

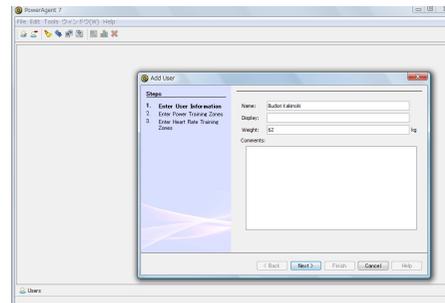


付属のCDあるいはダウンロードした最新のPowerAgentを、指示に従って(CDを入れると自動でスタート)インストールを実施して下さい。

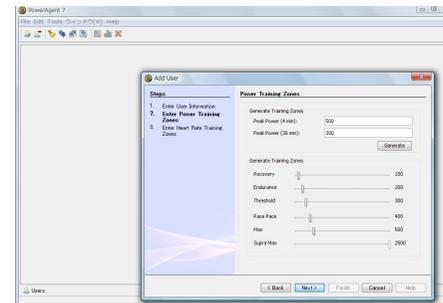
使用するユーザーを入力します(Add User)



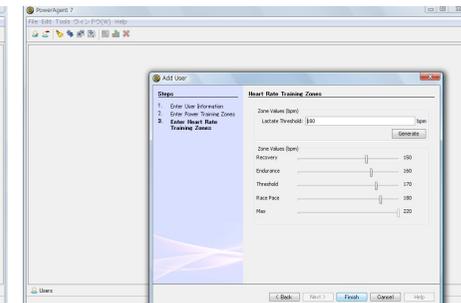
Add userを押す



名前、体重を入力し、
Nextを押す



30秒、4分のピークパワー
がわかっていれば入力



LT時の心拍がわかっていれば
入力し、finishを押す

8. パワータップコンピューターの設定1(最初だけ)

[Mode]と[Select]を同時に長押し続けると、
“find”→“clr”→“setup”と表示が変わる。“setup”でボタンを放すと、セットアップ画面に入る



セットアップ画面
Selectを押す



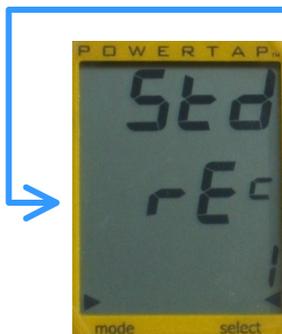
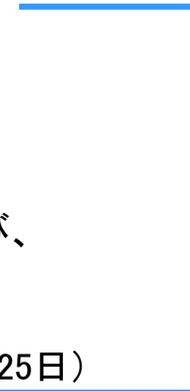
時間設定を24時間表示
または12時間表示に
するかSelectを押して
選択し、Modeを押すと決定。



時刻を設定
Selectで値を選び、
Modeで決定し、
次の値の入力
(例は15時03分)



日付を設定
Selectで値を選び、
Modeで決定し、
次の値の入力
(例は2008年4月25日)



データ記録間隔
の入力
(例は1秒)



ホイール周長
の入力
700 × 20C 2086mm
700 × 23C 2096mm



距離単位の入力
キロかマイル
例はキロで入力
Copyright BlueWych Ltd.



総距離計の入力
(電池入れ替えの際
などの総距離再入力)

9. スタート前の準備(走る時は毎回)

1. 本体からの信号受信



ホイールを回転させると
本体から信号を発信し始める
(写真はSL2.4)



コンピュータ部での
信号受信の確認

2. ゼロトルク設定

気温によってひずみ計のゼロ位置が変わるため、走行前に必ず実施して下さい



Selectを長押しして、
WATTSを点滅させる



-0などの数字が出る
もう一度selectを長押しして、
0にする



もう一度selectを長押しして
Powerの点滅を止める



データのクリア



完了

3. 走行開始

注:長時間停止した際にsleepモードになり一旦表示が消えると、再度modeあるいはselectを押して起動させる必要があります

インターバルモードについて

記録中のデータに区切りを入れて、区切った区間だけの平均値などを後で見ることができます。それがインターバルモード操作です。

区間を区切りたいデータの始まりと終わりで、modeとselectを軽く同時押しするだけです。コンピューター上には“int1”などと2秒ほど表示された後、表示は消えます。この時に既にインターバルモード1に入っていて、そこから記録するデータはインターバル1データとして記録されます。もう一度modeとselectを軽く同時押しすると、同様に“int2”と表示が出ます。この時点で、インターバル1データの記録は終わり、次のインターバル2の記録が始まりますが、考え方としては、インターバル2が始まったと言うよりもデータ記録の終点を決めた、と考えればいいのです。後でダウンロードしてみると各区間がインターバル1のデータとして区切られていることがわかります。

例 登りのタイムトライアルを実施して、このTT区間だけを切り出して後から見たい、あるいはコンピューター上に表示させたい場合
→タイムトライアルをスタートする時にmodeとselectを軽く同時に押すと、TT区間のスタート時点でインターバル2が始まる(インターバル1が終わる)タイムトライアルのゴールと同時に、もう一度modeとselectを軽く同時に押す。これでインターバル2としてTT区間が記録されます。

記録したインターバル区間は、その区間の距離や平均速度、平均パワー値など必要なデータが見られます。インターバル区間はダウンロード後、コンピューター上で区切られた区間として各データが見られますが、その場でコンピューター上から呼び出して見ることもできます(TT終了直後に呼び出して、平均パワー値などを確認できる)。

平均Power,平均速度、時間などを表示するように各段の表示をselectで切り替えた後、

modeボタンを2秒間押して下さい。“int2”などの表示が見えます。

更にmodeボタンを3回ほど押すと、“int2”が点滅し始めます。ここでselectを2秒ほど押し続けると、Mという記号が出てきます。ここで、メモリーを呼び出す状態になっています。

selectを押して、見たいインターバル区間を呼び出すと(インターバル番号が変わります)、各段にそのインターバルでの平均値が表示されます。

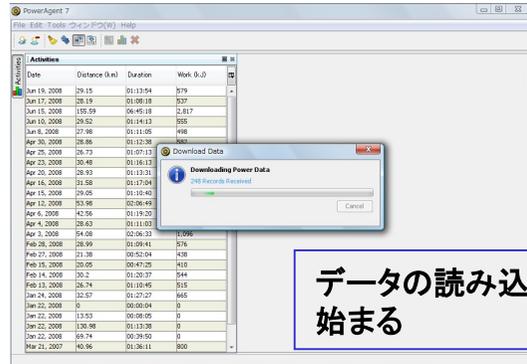
インターバル中に以上の操作を行うと(これは実際のところなかなかできませんが)、記録中のインターバル区間の平均値をliveで表示します。

10. データのダウンロード

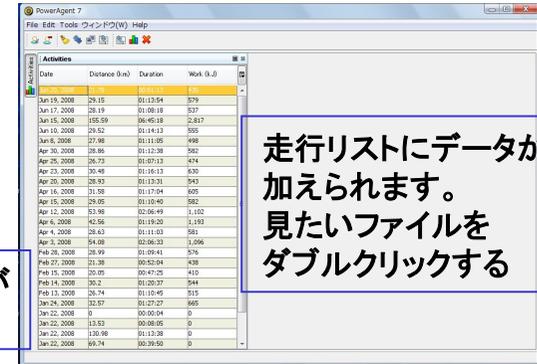
コンピューターをクレドル(ダウンロード用接続器)に取り付ける際には、「カチッ」と音がするまで強く押し込んで下さい



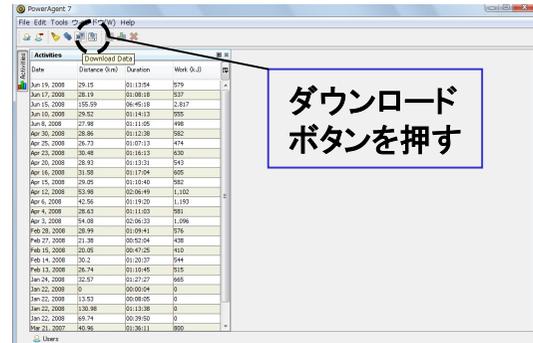
接続し、PowerAgent7を立ち上げ
コンピューターのボタンを押し、起動



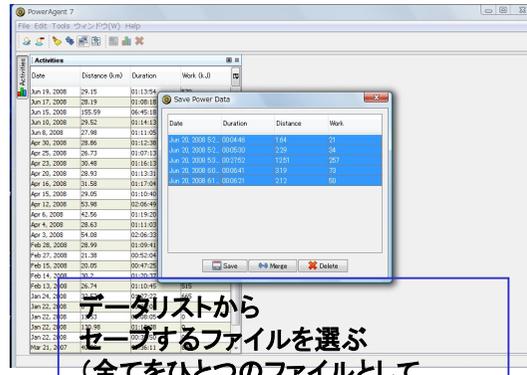
データの読み込みが
始まる



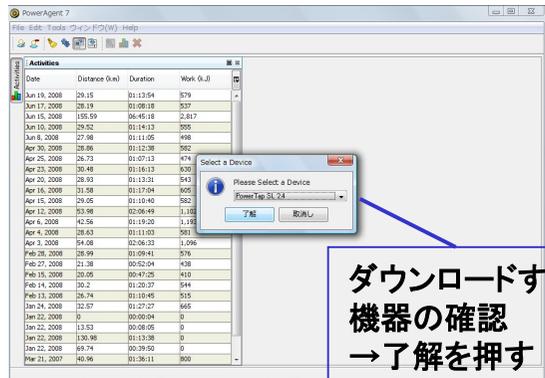
走行リストにデータが
加えられます。
見たいファイルを
ダブルクリックする



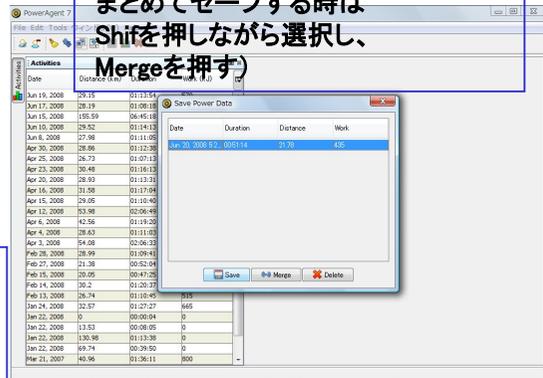
ダウンロード
ボタンを押す



データリストから
セーブするファイルを選ぶ
(全てをひとつのファイルとして
まとめてセーブする時は
Shifを押しながら選択し、
Mergeを押す)



ダウンロードする
機器の確認
→ 了解を押す



Detailを押すと詳しい
内容が見られます

作成・更新履歴

- Ver.0 2008/6/24 柿木克之(BW) 西園良太(東京大学運動会自転車部競技班)
- Ver1 2008/11/22 コンピューターをクレードルに接続する際の注意を追記
インターバルモードの操作法を追記